

平成28年 大館市の10大ニュース

順位	項目	説明
1	地域連携DMO「秋田犬ツーリズム」設立 ～秋田犬を基軸に交流人口拡大へ～	地域連携DMO「秋田犬ツーリズム」を設立。モフモフ動画は119万ビュー突破。佐竹知事とも銀座で秋田犬ウォークを開催したほか、タイ王国や台湾にも出向き秋田犬のふるさとをPR。東京五輪ホストタウン登録も決定。秋田犬のあこ・飛鳥と地域おこし協力隊も活躍中。ハチ公の縁でつながる渋谷との交流もいっそう深め、さらに函館・大館・角館の3D連携に向け第一歩を踏み出した。
2	日本海沿岸東北自動車道 鷹巣大館道路 鷹巣IC～二井田真中IC間 開通	日本海沿岸東北自動車道 鷹巣大館道路 鷹巣IC～二井田真中IC間が10月22日に開通し、大館市内で予定されていた全区間が開通。来年度には大館能代空港まで延伸する予定となっており、今後空港を拠点とした観光ルートの創出などが期待される。
3	新庁舎建設の基本設計業務に着手	4月に新庁舎建設のためのプロポーザル審査委員会を設置。市民の皆さんを参加対象とした技術提案書に関する公開ヒアリング（8月）を経て、設計事業者を久米・秋田県協同組合設計共同体に決定。基本設計業務の契約期間を平成28年10月11日から平成29年6月30日までとした。
4	交流人口拡大のためのイベント開催	10月には「きりたんぼまつり」に加え、全県規模のイベントが立て続けに大館市で開催された。「秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！」では地元の熱い声援を受けた大館Aチームが3位、Bチームも6位と健闘。南種子町の鉄砲隊が火縄銃の試射を披露。また、秋田県を代表する伝統芸能を一堂に会した「新・秋田の行事」では、郷土芸能のほか台湾からも2団体が参加して伝統芸能を披露。いずれのイベントも大盛況となり、樹海ドームの集客力の高さを示した。
5	あきた未来づくり協働プログラム事業の開始	本年3月25日、県庁で開催された「あきた未来づくり本部会議」において、本市が提案する「ハチ公と歴史に触れる交流人口拡大プロジェクト」の認定を受け、事業がスタート。
6	「博報ワークショップin大館」の開催	2年連続で博報賞（釈迦内サンフラワープロジェクト、教育研究所）を受賞した大館市の教育をテーマにしたワークショップが8月に開催された。これまで博報賞を受賞した教育実践者ら27名が全国から参加。参加者から「大館の教育がこれからの日本の教育のスタンダードになる」と絶賛された。
7	子ども・子育て支援の充実	子育て家族応援拠点「子育てサポートさんまある」を開設。専任職員が妊娠前から切れ目ない支援を提供。福祉医療制度の助成対象を中学生まで拡大（新規受給者1,216人）。小規模保育施設や幼保連携型認定こども園の開園・リニューアルなどで保育の受け皿拡大（定員約100人増）。大館ホテヤこども園内には市内3施設目の病後児保育施設「エンジェル」が開所。さらに全ての公立保育園で延長保育を実施。
8	「地域包括ケア病棟」の運用開始及び「認知症疾患医療センター」の開設（総合病院）	総合病院では、4月から地域包括ケア病棟の運用を開始し、従来の急性期に加え回復期の医療も提供。在宅復帰をより手厚く支援することができるようになった。また、認知症高齢者の急激な増加が見込まれる中、10月から認知症疾患医療センターを開設し、認知症に関する相談、診断等に対応し地域の認知症対応能力の向上に寄与する。

9	大館市歴史的風致維持向上計画の最終案策定	三省庁とのヒアリングや関係者協議と並行して市民を対象とした地区座談会やまち歩きを重ね、予定を3か月短縮して最終案をとりまとめた。今後は、年度内の認定や来年度以降の事業化を見据え、引き続き歴史まちづくりの推進を図り、市民の満足度向上と交流人口の増加を目指す。
10	ジュニア救命士講習初開催	小学校高学年を対象とした「ジュニア救命士講習」が初開催された。小学生の頃から命の大切さと救命手当の重要性を繰り返し習得することにより、救命率の向上につながるもの。8月から3回開催し、56名のジュニア救命士が誕生。
特選	金田勝年衆議院議員が法務大臣に就任	地元選出の金田勝年衆議院議員が法務大臣に就任。秋田県選出議員の入閣は野呂田芳成氏以来17年ぶり。金田大臣のますますのご活躍をお祈り申し上げます。
	その他のトピックス	<p>地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税事業が採択  常陸大宮市と友好都市推進協議会を設立し交流事業を推進  大館市空家等対策計画を策定  花矢地区地籍再調査事業（一筆地調査）が終了  シンクタンクの設置  選挙権年齢引下げ（70年ぶり）  都市計画税の見直しに着手（庁外検討委員会設置）  マイナンバーカードの交付を開始  高齢化率36%台に上昇  大規模な園芸団地を整備し、えだまめの産地化を推進  移住交流課を新設  厚労省の採択を受け「生涯現役促進地域連携事業」開始  県内最大級の植物工場が稼働  アグリビジネス支援に関する協定を締結  葛原バイパス完成  除雪車運行管理システムを導入  向町住宅が完成  1億円の寄付で「佐々木教育振興基金」設立  主要地区公民館の改築完成（長木地区・矢立地区）  大館桂桜高校開校  循環器地域連携バスの運用開始（総合病院）  研修医3年連続フルマッチ（総合病院）  大館市消防団再編計画スタート  小型無人機・ドローンを実践活用（消防本部）</p>